

副首都推進本部（大阪府市）会議

《第13回議事録》

■日 時：令和6年2月9日(金)10:30～11:33

■場 所：大阪市役所P1階（屋上）会議室

■出席者：吉村洋文、横山英幸、山口信彦、西山忠邦、露口正夫、廣原一彦、西島亨、
（名簿順）榎本和巨、舟橋正徳、福島伸一、辰巳砂昌弘

（西島事務局長）

それでは、定刻となりましたので、第13回副首都推進本部（大阪府市）会議を開催させていただきます。

本会議につきましては、会議公開の原則にのっとり、会議の状況をインターネットで配信し、配付資料、議事録は公表することといたしております。あらかじめご了承くださいますようよろしくお願いいたします。

初めに、本日の会議の出席者をご紹介します。

本部長の吉村大阪府知事でございます。

副本部長の横山大阪市長でございます。

また、本日は公立大学法人大阪から福島理事長、辰巳砂学長にもご出席をいただいております。

このほかの大阪府、大阪市の出席者につきましては、お手元に配付しております資料1の出席者名簿のとおりでございます。

それでは、本日の議題でございます「大阪公立大学の取組について」に移らせていただきます。

今年1月から公立大学法人大阪の大阪府市の法人管理部門が副首都推進局に移管され、府市と法人との協議・調整を一元的に進めているところでございます。そうした中、本日の会議では、第2期中期目標案の作成に先立ち、今後の大阪公立大学の取組について意見交換を行っていただきたいというふうに考えてございます。

初めに、資料2につきまして、露口副首都推進局理事より説明を申し上げます。

（露口副首都推進局理事兼公立大学法人担当部長）

副首都推進局大学担当理事の露口です。よろしくお願いいたします。

私から、本日の会議の趣旨について説明させていただきます。資料2の「大阪公立大学の取組について」をご覧くださいと思います。

次のページをお開きください。

公立大学法人大阪につきましては、5年前の2019年4月に府市の両大学法人が統合して設立されたところです。2022年4月には新たに大阪公立大学が開学しました。現在、2019年度から2024年度までの6年間を期間とします第1期中期目標・中期計画の期間中です。来年度が第1期の最終年となっております。来年度中には設立団体の府市が2025年度から始まります第2期中期目標を策定いたしまして、法人に目標を指示しまして、それを受け

て法人サイドにおいて第2期中期計画を策定するということになっております。

本日は、今後の大阪公立大学の取組について、法人の理事長、学長からヒアリングをさせていただきまして、設立団体の府市トップの知事、市長と意見交換を行っていただきまして、第2期中期目標案の作成につなげていきたいというふうに考えております。

今後の第2期中期目標・計画の策定スケジュールにつきましては、このページの中段以降に書いておりますけれども、本日の意見交換を踏まえて、府市において案を作成いたします。6月頃になりますけれども、その案について、地方独立行政法人法に基づいて大学法人と府市が設置いたしております大学評価委員会に意見聴取いたします。そして、9月の議会への提案と。そして、議決をいただけたら、法人に目標を指示ということになります。法人サイドとしましては、指示された目標を踏まえて中期計画を作成し、1月頃になると思いますけれども、府市の評価委員会へ意見聴取を経て、2024年度内に府市で認可するというような形になります。

あと、資料には、大阪公立大学に関する取組の経過と第1期中期目標の概要を参考として添付させていただいております。

以上、よろしくお願いいたします。

(西島事務局長)

次に、資料3につきまして、公立大学法人大阪の福島理事長、辰巳砂学長のほうからご説明をいただきたいと思います。15分程度でお願いできればと思います。

(福島公立大学法人大阪理事長)

皆さん、改めましておはようございます。理事長の福島でございます。

また、今日、知事、市長にお時間いただきましてありがとうございます。また、日頃、当大学に対しましてご支援、ご協力いただいております、この場を借りて厚く御礼と感謝を申し上げたいと思います。

先ほど露口さんからございましたが、来年、2025年度から新しい中期計画がスタートいたしますので、現在、大学がそれに向けてどんなことをやりたいか、考えているかということをお手元の資料に基づきましてご説明させていただきまして、知事、市長からのご意見いただければと思ってます。よろしくお願いいたします。

私のほうからご説明させていただきます。ページをお開きいただきたいと思います。1ページ目をお開きいただきます。

これは本日のご説明内容でございまして、まず現行の中期計画の成果を一つ整理しました。それから、大きな2番目といたしましては、大学のさらなる発展に向けた現在の新たな取組につきまして、これは三つほどやっていきたいと思っております、まず一つは大学の国際力、国際競争力の強化ということで、これにつきましては教育・研究の国際化と、それから秋入学の導入に向けてということ。それから、二つ目は産官学民共創の強化で、これは本学ならではのミッションでございます都市シンクタンク機能の強化と技術インキュベーション機能の強化、それからスタートアップの創出。それから、大きな三つといたしましては、社会・時代のニーズに応じました教育研究組織の改編・整備について考えておりますので、これから順次ご説明させていただきたいと思います。

2 ページ目ですが、まず現行中期計画の主な成果について少しご説明いたしますが、ここにおける基本の考え方は、大阪の成長と発展に貢献しまして、大阪から世界へとグローバルに発展する大学づくりをめざしていたところでございます。

次に、3 ページ目をご覧いただきたいと思います。現行中期計画はあと1年をまだ残しておりますけど、これまでの成果を少し整理させていただきました。まず1点目は大学統合の実現ということで、これは府市のご支援、また前理事長、現辰巳砂学長等々のご尽力もいただきまして、2022年の4月に二つの大学が統合して、幅広い研究分野を有する総合大学として、日本で最大の公立大学として開学できたということでございます。そこに記載していますように、入学定員数も、これは阪大、東大に次いで日本でナンバー3と。それから、入試におけます一般選抜志願者の数ですね。これは昨年もですが今年も国公立大学で最大の志願者ということになっております。それから、その下の表のランキングでありますけど、これはまだまだ不十分ですが、統合メリットも少しずつ出てきておりまして、今後、後ほど少しご説明いたしますが、もう少しさらに高みをめざして取り組んでいきたいというふうに考えております。

それから、成果の二つ目はキャンパス整備の進展ということで、4 ページ目でございます。まず、大阪府市におかれましては918億円という大学の成長に向けての投資をいただいております、まずもって御礼と感謝を申し上げたいと思います。おかげさまで、その画面にございますように、この春には中百舌鳥の工学部で、それから杉本キャンパスの理学部で新棟が開設いたします。そして、来年の4月には阿倍野キャンパスでの看護新棟、それから来年の秋にはいよいよ森之宮で新しいキャンパスがオープンする予定になっております。

次に、5 ページ目ご覧いただきたいと思います。三つ目は、大学自らが稼ぐというマインドで、外部資金の獲得に向けて大学全体で取り組んできておりまして、これは実は先日、知事、市長にもご報告させていただきましたが、下の表の1番上にあります地域中核・特色ある研究大学強化促進事業、こういったものにも北大や慶應と並びまして採択されまして、本年度の外部資金獲得金額は初めて100億円を超えるという状況になっております。

以上三つ、主なものだけ挙げさせていただきましたが、私、理事長に就任いたしまして10か月強ですけれども、これは本当に教職員の皆さん頑張ってくださいまして、大学全体が少しずつですけど前に前にと成長に向けて動き出して進んでいるんじゃないかなと実感もしておりますので、ぜひ知事、市長におかれましては引き続きのご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

続きまして、6 ページ目は今後の話でありまして、次の大学のさらなる発展・成長に向けた取組ということで、基本のコンセプトといたしましては知の拠点として新たな成長のステージへということで、そこに記載しております三つのことを重点的に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次の7 ページ目をお開きいただきたいと思います。まず1点目は、これはもう皆さんご存じであります18歳人口が減少するなかで、大学間競争に勝ち残るために国際力、国際競争力の強化にまず取り組んでいきたいと考えております。めざす姿は、国内外の研究者・学生から選ばれる大学になるとともに、キャンパスの国際化を図りまして、我が大学のキャンパスの風景を変えていきたいというふうに考えております。

まず、(1) 教育・研究の国際化につきましては、まずは外国人研究者・学生を、これは現状900名弱ということで、ほかの大学から見ると高くというか、かなり低い状況になってますので、まずその倍増を次期中期目標期間においてめざしていきたいというふうに思っております。そして、そのためには、②でありますが入入れ・支援体制の整備が必要でございます、この4月には国際事務センターを設置するとともに、外国人の方を迎え入れするときには住環境が大変重要かと思っておりますので、宿泊施設につきましても、これはPFIの活用を検討しまして2027年、杉本キャンパスにその施設を建設する予定でございます。また、③ですが、本学は200を超える海外の大学・機関との学術交流協定を締結しておりますので、今後は欧米との連携協定、それから、量もさることながら質を高める。こういったものを強化してまいりたいと思います。それから、これは昨年から重点的にやっておるんですが、「サイエンス」とか「ネイチャー」、こういったところへの研究論文の掲載を行いまして、さらに積極的な情報発信に取り組んでいきたいと思っております。それから、④は日本人研究者・学生の海外留学・派遣の促進。これもあまりいい数字じゃないので、コロナ前がピークで、これは2019年なんですけど約850名ぐらいというレベルでありますので、これにつきましてもぜひさらなる促進を図っていききたいと思っております。そして、これら等々の取組を通じまして、THE世界大学ランキングの向上を、まず5年後にランキングで500位以内。これは大体今、日本の大学でいいますと旧帝大を中心に10校ぐらい入ってるのが今の状況ですので、まず500位以内と。そして10年後には200位以内をめざしていきたいというふうに思っております。

それから、8 ページ目の秋入学導入に向けてということでございます。まず初めに、今私が7 ページでいろいろ説明いたしましたのは、大学として、ほかの大学に追いつこう、追い越そうということで取り組んでいきたいと思っております、この秋入学につきましては、大学として少し先進的なポジションの確立ですね。そういったものにぜひチャレンジをしていきたい。そんなことで、8 ページ目に記載しております秋入学導入に向けて取組をしていきたいと思っております。狙いはそこに記載しているとおりでありまして、国内外から多様な人材を受け入れ、大学の国際化を推進するとともに、日本・世界で活躍できるグローバルな人をつくっていききたいということで、あわせまして大阪の国際化にも寄与していければというふうに考えております。めざす方向は、まず大学につきましては、全ての大学院で秋入学制度の本格的な導入をめざしていきたいと思っております。要は英語で学位が取得できるコースを設置するということであります。それから、学部につきましては、これは工学部等の学部・学科におきまして、秋入学制度を先行的に実施いたしまして、以降、他の学部へ順次拡大していければというふうに考えております。実施時期は、実はやるときに周知期間、周知時期が要りますので、2027年度の実施をめざして取り組みたいと思っております。大学内における推進体制チームにつきましては、検討チームを設置いたしまして、秋入学制度の導入について、これは昨年末から検討を開始しておりまして、メンバーはそこに記載していますように、リーダーは、今日も後ろにありますが教育担当の高橋副学長、サブリーダーが研究担当の櫻木副学長、それから企画担当理事、入試担当副学長等々で、オールOMUで、ぜひこれの実現に向けて取組を開始したところでございます。

次のページをお開きいただきたいと思います。大きな2番目の産官学民共創でございまして、狙いは記載のとおりでありまして、非常に多様な研究シーズを持つ本学の総合知を

生かしまして、行政や経済界、民間の皆さんと具体的な連携・共創によりまして、実証・実験から社会実装につなげまして、大阪・日本の産業力強化に貢献し、成長をけん引できればというふうに思っております。そして二つ目は、先ほども少し触れましたが自ら稼ぐ大学へ進化していきたいということで、本年度初めて100億を超えると説明いたしましたが、2030年度には現在の倍の外部資金獲得200億円をめざしていきたいというふうに思っております。それから三つ目は、2025年秋オープンの森之宮キャンパスにおきましては、都市シンクタンク機能と産官学民共創のヘッドクォーターとしての機能を整備いたしまして、あわせて森之宮キャンパス1.5期の計画におきましてさらなる拡充をめざしていきたいと思っております。来週には大阪城東部地区まちづくり検討会も開催されますので、ここ森之宮は約6,000人の教職員が使うイノベーションコアゾーンといたしまして、大阪東部のまちづくりの一翼をぜひ大学としても担っていきたいなというふうに考えております。そうしまして、これらのことを推進するために、本年の4月に産官学民共創本部を新設いたします。これは、メインミッションは大学における研究成果の出口のマルチパスウェイ化、戦略的に多様化を図る。そして、実証実験を通じまして社会実装の加速を図る。こういうのをメインミッションといたしました本部をこの4月に新設したいと思っております。

それから、ここで取り組むのは三つございますので、これも順次ご説明したいと思えます。まず、主な取組の一つ目の都市シンクタンク機能の強化でございます。これは資料の右側でございますが、2025年秋の森之宮キャンパスの開学に合わせて、行政の皆さんや民間大学のメンバーを構成メンバーといたします未来社会創生研究所を新設したいと考えております。そして、ここでは何をやるかということですが、いろんな都市課題の研究等々を行いながら、大阪モデル、これはウェルビーイングの指標等々も含めた大阪モデルを国内外に発信したいと思ひまして、その場といたしましてアジアラウンドテーブルといったような国際フォーラムを現在キャンパスの開学に合わせて開催したいと思ひしております、キーノートスピーチは知事にぜひお願いしたいなというふうに思っております。

そして、その下ですが、2025年に先行いたしまして、この秋に、これも森之宮で政策共創オープンラボとイノベーションラウンジを開設したいと思っております。この森之宮のオープンラボでは、大阪が取り組まれていますORDENといったものを活用しましたデータ連携を基盤とした産官学民の連携プラットフォームをまず形成していければというふうに考えております。

ここでちょっと、何で来年やるのに森之宮ということで、ちょっと細かい話で恐縮なんです、実は大学の事務局の機能は3か所に分散しておりまして、今回URの関西支社が空き家になっておりまして、非常に格安で入居しないかというお誘いもありましたので、3か所に分散している本部事務局機能をこの森之宮に集約するというので、あわせてこんなラボをここでつくりたいということでございます。

それから、次の11ページ目をお開きいただきたいと思います。これも本学ならではのミッションでありますけれども、技術インキュベーション機能の強化ということで、これは一昨年から取り組んでおりますイノベーションアカデミー事業を通じまして共創研究の加速化ということで、じゃ、共創研究は何かということで、そこの表に5つ記載しておりますが、現在の共創ユニット5つ掛けるAIで取り組んでおります。ちなみにスマートシティ

ではORDENとの連携、それからスマートエネルギーでは中百舌島にハブの施設を来年オープンいたします。以降、スマート農業とかスマートヘルスケア、子ども未来社会、こういった切り口で、現在それぞれ企業の皆さんとも連携を図っているところでもありますので、これらのさらなる推進を進めていきたいということでございます。

それから、下のほうに知財で触れておりますが、知的財産の特許ライセンス化と技術移転の強化を図るために、これも知的財産マネジメント室と技術移転推進オフィスを新設いたしましたして、そこに記載しておりますが、現在、大学の特許ライセンス収入が1,000万円ということなので、物すごいチャンスがあるなということで、これを大幅に増やしていきたいというふうに考えております。

それから、（３）スタートアップの創出・支援でございまして、これは大学発のスタートアップを創出しまして、大阪・関西の産業力強化、できたら大阪の新産業の創出に何か少し貢献できればなというふうに思っております。ここでは大学発ベンチャーの、これはやっぱりまずは量と質ですね。夢はよく言ってますが、ユニコーン企業をつくろうと。OMU初の一と言っておりますが、まずは質と量、両方をめざしながら取り組んでいきたいと思っております。そのために、先ほどご説明いたしました産官学民共創本部の傘下に、白丸に書いておりますがスタートアップの創出・支援を強化するためのスタートアップ創出・支援室を本年の４月に新設いたす予定でございまして。ここでは、少なくとも今後50社以上の大学発のスタートアップベンチャー企業をつくっていききたいなというふうに考えております。また、そのために学内のURAといった人たちとか共創コーディネーター、こういった方々の体制を充実・強化してまいるとともに、加えまして、これはぜひ大阪府市、大阪産業局、経済界、こういった皆さん方のご支援、連携・共創も進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、最後に13ページ目をお開きいただきたいと思います。社会や時代の変化に応じまして、教育研究組織の改編と整備に取り組むということでございます。再構築の視点と書いておりますが、要は現在、文科省の縛りが2025年までありますので、以降は、そこに記載しているように２行目の工学、理学、看護など、両大学で併存いたしました学部・学科については、効率的な組織体制の在り方を検討していくということ。それから、それに先行いたしまして、私どもの大学は総合知が強みでありますので、それを生かしました、例えば医獣工連携など、学内の異分野連携を進めていきたいと思っております。とともに、2026年度には創薬科学研究科を新設いたします。さらに、2028年度には情報学研究科を森之宮キャンパスの1.5期へ移転を行っていききたいと思っております。と同時に、人文社会科学系を含みます学部・学域・研究科の再編の検討を開始していきたいと思っております。その検討体制といたしましては、白丸三つ目のところですが、2024年度中に、ちょっと名前は長いんですが、学部・学域・研究科将来構想委員会を立ち上げまして、次期中期計画においては実現してまいりたいというふうに考えております。

すみません、ちょっと時間長くなりましたが、以上、これでご説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

（西島事務局長）

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明を踏まえまして意見交換に移りたいと思います。

初めに本部長、いかがでしょうか。

(吉村本部長)

まず、福島理事長、辰巳砂学長、また大学関係者の皆さん、本当にいつもありがとうございます。お疲れさまです。

今報告も受けまして、着実に進んできてるなというふうにも感じました。これは、理事長、学長をはじめ、学内の主要なメンバーを含めて、第1期中期目標に基づいて進めていこうということで実現できてるんだと思います。具体的には大学統合の実現ということで、日本最大規模の公立大学が誕生し、そして現実動き始めてると。中百舌鳥、杉本、阿倍野キャンパスの新棟の整備と、それから何より森之宮の新キャンパスができると。その整備。ここも着実に積み上げてきて、そして大型の外部資金も獲得してるということで、第1期中期目標についてはかなり実行して、前に進んでこれたというふうに思っています。大切になってくるのは、今度、第2期中期目標、今日の議題にも関わるかというふうに思います。

その中で、今話をお聞きして1番これは大切じゃないかと思うのは、やっぱり国際化ですね。大阪公立大学が国際的な大学としての先陣を切っていく、知の拠点となっていく、ここは非常に重要だと思います。というのは、大阪自身が国際都市をこれからめざしていこうと。これは大阪府市の基本方針でもありますけれども、世界に開かれた国際都市を大阪としてめざしていこうと。経済的な副首都と言えるような、そんなまちをめざしていこうという大きな大目標があります。その中で、大阪公立大学はやはり大阪の知の拠点として引っ張っていただきたいという思いがすごくあります。これは何でかという、これは大学がもともとできたときの先人の声、本当にそのとおりでなと思うところがあるのが、やはりなぜ都市が大学を持つんですかというところに、ここは常に原点として持っておかなければならないところだと思うんです。大阪には国立大学もたくさんありますから。私立大学もたくさんある。国立大学の二番煎じであってはならないと思いますし、私立大学があるんだったらそれでいいんじゃないかという声も当然出てくる。何で大阪府市が200億円、そしてこの間ずっと積み重ねて公立大学を持ってるんですか、都市大学を設置してるんですか。それはやはり国立大学にはない、そして私立大学でもない、本来の都市大学としての大阪公立大学の存在意義、ここが僕は非常に重要だと思ってます。国立の二番煎じとか、単に受験戦争の中で、受験勉強の中で、国立が駄目だからこっちに行こうと、京大、阪大が駄目だからこっちに行こうとかそういうのではなくて、やはり大阪公立大学が持つ独自の意義というのをこれからはより発揮してもらいたい。そして、それこそが大阪のめざす成長、そして大阪の知の拠点、我々行政にはない知の拠点として引っ張ってってもらいたいというふうに思っています。

そうなってくると、やはりこれからの時代で考えたときに国際化、国際的に開かれた都市をめざす。そのための大学というのは非常に重要な視点になってくると思います。なので、この第2期の目標の中でもやはりとりわけ私自身がやってもらいたいと思うのは大学の国際力強化のところなんです。様々、方策を示されましたが、これはいずれも大賛成でありますし、それから、これは課題があっても本当に難しいかもしれませんが、秋入学につ

いては真剣に考えてもらいたいと思います。以前東大が本気でやろうとして、結局いろんな国内の事情もあってぼしかったという理由があります。だから、課題があるのは分かっているんですけども、やはり世界的な標準に合わせた大学というのを考えたときに、秋入学というのは一つの大きなポイントになってくると思います。今の日本の文化からするといろんな、なかなか、ここが合わないんじゃないかとか課題が出てくるとは思うんですが、でも、結局世界の中で日本があるわけで、日本が成長していく中では世界というのを考えていかなきゃいけない、もうそういう時代に入ってきてますから、そういった意味ではやはり秋入学導入に向けた検討を本格化してもらいたいと思います。推進体制として検討チームを設置して検討開始ということで、ぜひこの検討チームにおいては本気で検討してもらいたいと思います。私自身もぜひそれをバックアップしていきたいと思いますし、非常に重要な視点だと思います。めざす方向性として、全ての大学院で秋入学の本格的導入をめざすと。英語で学位が取得できるコースの設置も、ぜひこれはやってもらいたい。そして、工学部等の学部・学科において先行的に実施して、他の学部にも広げていくということですけども、これもぜひお願いしたい。2027年度を目標にということで、ここをある意味大きな方向性としてぜひ進めたいと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。これは、理事長、学長だけの力では当然できないと思います。大学の主要なメンバー、運営してるメンバー、また先生方の理解も要るとは思います。その中で、ぜひ一致結束して、ここは大阪の未来のために。世界に成長する大阪というのをこれから続けていこうと思ったら、やっぱり国際的に開けた都市である必要があるし、国際的に開けた大学というのが非常に重要になってくる。そして、いずれそういう時代になってくると思います。いかに早くこれをやるかというのは非常に重要だと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

それから、森之宮の拠点、都市シンクタンク機能、技術インキュベーション機能を確実に進めていくということで、これは以前から掲げてることで、森之宮にヘッドクォーターとしての機能を設置するということです。これは横山市長とも今連携して進めていますけども、森之宮全体のまちづくり。あそこは非常に、大阪城東部地区ってものすごくポテンシャルが高いエリアだと思ってます。そう思ってるメンバーは非常に多いので。これは府もそうですし市もそう。横山市長とも話してますが、やっぱりそうだし、なので府市協力して。またこれは市の出資会社ですけどメトロさんも非常にあそこは重要な拠点だということで考えてらっしゃる。なので、大学も入っていただいて、都市シンクタンク、技術インキュベーション、官民連携という意味では森之宮のまちづくり全体にも関わってくると思うので、そういったことも我々も頭に置いて、この森之宮のポテンシャルを最大限に高めていく拠点にしたいというふうに思っています。

そして、最後に組織の改編・整備については、ここはぜひ次期中期目標に入れてもらいたいと思います。様々、両大学で並存していた学部・学科等もありますから、効率的な組織体制の在り方を検討するのは当然のことだと思いますし、また、そうすることによってさらなる効果を大きく発揮することもできると思います。これは再編となると、いわゆる既存の学部・学科については、何でこんなことするんだというところからの出発点になるとは思いますが、でもここは避けては通れない道だというふうに思いますし、大学がより成長していくためには重要な視点だと思いますので、ここはぜひともしっかりと強力で推

進してもらいたいと思います。僕が話聞いてもらいたいのは以上です。

この後、市長も話あると思うんですけど、1点質問があるとしたら、秋入学のところで工学部からというのがあるんですが、それは工学部がそれに適してるという考え方なのか。なぜ工学部なのかなというのをちょっと知りたいなと思いました。

（福島公立大学法人大阪理事長）

もともと工学部の研究科長は僕に大学の公用語を英語にせいと言うような人なんです。ということであって、彼は、僕も直接話しましたら、大学で工学部は英語を公用語にしたいというようなことを言ってますので、1回チャレンジしたろうと。おたくの部でという投げかけとか対話をしてるんですけど、やっぱりその学部長、研究科長のそういう意欲が一つと、先生方がそういうふうなことをやれるマンパワーがそろってるということで、イメージは工学部の中のある数十人のところを全部英語で授業をすると。こんなふうなことを、僕直接たまたま彼ら、そんなふうなことを言っておりました。

（辰巳砂大阪公立大学学長）

今、理事長がおっしゃったようなことというのが象徴的にはありますけれども、やっぱり工学、理学、看護学というところは、再編をやはりするところになってます。なってるというのは、もう前からそういう必要がありますという話をしていきますので、次の中期計画の期間には、こういう話だけではなくていろんな再編をやる中で、一つ秋入学をターゲットとしたような、そういうことを検討したいと。それがあります。だから、どこでもいいわけではなくて、全く新しいところにつくるとなると、非常に人事とかいろんな難しい問題がありますが、今あるところで非常に大きくて力もあるところから始めるのが多分広げていく上では非常に有効かなと思いますし、やっぱりまずどこで1番やれるかということを考える必要が私はあるのかなと思ってます。

（吉村本部長）

ありがとうございます。ぜひそうであればやってもらいたいなというふうに思いますし、先ほど学部の公用語を英語にするという話がちょっとありましたけど、これ実は僕すごく大切だと思ってて、またこんなことを言うと吉村がおかしなことを言い出したとなるので、さっき言うのを控えてたんですけど、大学の公用語を英語に全部するという時代に持っていけないと駄目だと思うんですよね。なので、そういったものを、例えば大阪公立大学で、大阪公立大学の公用語は英語ですと。僕、これぐらいのことやっていいと思いますし、やらなきゃいかん時代なんだろうと思ってます。本音では。やはり世界に出ても、これだけ英語でコミュニケーションを取れない国ってもう今ないと思います。先進国で。しかも、どんどん競争力が落ちてますよね、日本全体の。でも、海外はそこはやっぱり上がっていったのも間違いなくて、もともとやっぱり非常に僕は日本って勤勉な国だと思うので、すごく能力高いと思ってんですけど、やっぱりこの言語の問題、英語というのは、英語でコミュニケーションを取ったり、英語をある意味スタンダードにしていくという発想が、どうしても島国だから起きてこないし、今何とかこの1億人のパイの中で生活してるので、徐々にみんな貧乏になってるんですけど、そこはみんな気づいて気づかないふ

りをしてるといような状況が続いてる気がしてて、これからの若い世代のことを考えると、大学の公用語は英語ですというぐらいの大学って、僕1校ぐらいあってもいいと思うんですよ。それこそ、さっき言った話じゃないですけど、国際都市大阪をめざすのであればそこを引っ張る、先導するリーダー役な知の拠点としての公立大学の公用語は英語ですと。もうそのぐらいのことを僕は本当はやってほしいなと。あまり言うと、吉村はまたおかしくなったとなるから言わないんですけど。でも、本当はそういうふうに思ってた、公立大学の無償化も全員対象ですからね。こんなところはないわけですよ。そうなってくると、やっぱり公立大学で何を教えるの、何を学んでどういったことをめざすのということを考えたときに、やっぱり大学の言語は英語でここはやると。そこに非常に興味を持つ若い高校生たちって多いと思うんですよ。もちろん一部の人は大学から留学行く人いますけど、そうじゃなくても、やっぱり英語を学んで国際的に活躍したいと思ってる高校生は今すごく多くて、そういったところの受皿ってあまりなくて、みんな同じ偏差値教育の中に入ってる。なので公立大学は、大阪の子どもたちは無償なんだし、そこまで設置を大阪府でもやってるわけですから、特徴をがんがん追求してって、そういったことを学びたい子どもたちはここへどうぞというぐらいのことをやるべきじゃないかな。だって、私学もいっぱいあるじゃないですか。関西って。国公立も、京大も阪大も神戸大学もたくさんあるし、そう考えたときに、本当に大学の言語を英語にしようという声をもっと出てくるべきなんじゃないのかなとは正直思ってます。今回はその前だと思うんですけども、そういった英語で単位が取れる、英語で学位が取得できるコースの設置と。これは言語は英語だと思うんですけども。そして、まずやはり秋入学というのを、やっぱり国際標準に合わせていく。ここをちょっと本気で大阪公立大学は考えてもらいたいなというふうに思いますので、よろしくお願いします。また、大阪府においても中期目標第2期を考えるに当たっていろいろ策定していきますけど、その視点をぜひ、第1期の目標はかなり実現できてると思うので、第2期、次の新しい時代はそっち側の方向により力を入れなきゃいけないんだというのをぜひ考えてもらいたいなと思います。

(西島事務局長)

続きまして、副本部長はいかがでしょう。

(横山副本部長)

理事長、学長をはじめ、本当に皆様ありがとうございます。今日も大変、取組内容もすばらしい内容をご説明いただきました。大阪にとっては、今度森之宮のキャンパスも誕生しますし、まさにまちにとっても主役となる存在となっていくと思います。どうぞよろしくお願いします。

最初にちょっと英語の話が出てたので、僕も本当にそれを感じてまして、特に万博の機会がよく海外の方と接する機会があるんですけども、僕らが英語しゃべれなくて通訳さんがつくんです。すると、ほかのネゴシエーションからワンテンポ遅れるんですね。どうしても。ほかの国々の方はみんな英語しゃべれるんです。よくよく聞いてみると別にそんなに文法が完璧なわけでもないんですけど。聞き取って話しているところを見ると。僕もこの間メルボルンとシカゴは行きましたが、英語圏じゃない人もやっぱり英語でコミュニケ

ーションを取って、つまり技術やそれはあっても、英語でコミュニケーションできないと多分コミュニティーに入っていけないというのは、日本にとって大きな損失じゃないかなと思います。これから先どんどん国際化が進んで垣根がなくなっていく中で、語学で遅れを取るということはやっぱりあってはならないなと思いますので、ぜひ公立大学さんのほうにおかれてもこの英語の部分、すごく先ほどの話も感動しましたので、ぜひ進めていただきたいと思います。

国際化については知事からありました。これぜひ進めていただいて、世界の中の大阪公立大学という位置を確立していただきたいと思います。

私のほうからメインで産官学民共創のほうを、ちょっとご質問も含めて。都市シンクタンク機能とインキュベーション機能、スタートアップ機能、いずれも非常に重要な機能の強化かと思います。ぜひ進めていただくとともに、技術インキュベーション機能の強化というところで、ちょうど森之宮にも新しいキャンパスが生まれますし、大阪には森之宮キャンパスのほうに産業技術研究所の森之宮センターもございます。機能としては類似というか連携できるところではないかなと思いますし、共に進んでいけるところではないかなと思いますので、ぜひこの点は大阪が既に持つインキュベーション機能の分野と連携をしていただいて進んでいただきたいなと思っています。

これ、5つの共創ユニットというのを、非常にビジョンもはっきりされてて素晴らしいと思います。大阪はもともと医療や関連産業が非常に強いので、このあたりの強みを生かしていただくとともに、子どもの未来社会の分野ですかね。ここも基礎自治体としてはぜひ力を入れていただきたいと思います。たくさん課題は多い分野ですが、何か解決方法というか前に進む案をここで練っていただくというのは非常に心強く思いますので、この点ぜひ力強く進めていただきたいと思います。知的財産のライセンス収入ですね。これも本当に大幅に増やしていただけるように、これはぜひお願いします。

あわせましてスタートアップ創出のところも、同じような話なんですけど、大阪はイノベーションハブとか、ベイエリアのほうにクロスラボとか、こちらもたくさん機能は有してるので、このあたりともぜひ連携いただきたいと思うんですけども、スタートアップで先ほど話が出たシカゴのほうで感動したというか、大阪は東京から見ても10分の1程度になって、その東京も世界から見たら取り残されてて、シカゴに行ったら、これがスタートアップの常識になってるんやなというのを感じました。ところが、シカゴもアメリカの中でいうとそんなにランクが高くないと。ということは、今の大阪は世界から見たら、スタートアップという位置づけとしてはどういう状況にあるんだろうと不安になってしまいます。シカゴでは非常に広い面積の中で24時間365日開いてる施設があって、そこではエリアが分かれてて、スタートアップはフェーズが分かれてるものですから、初期のフェーズの人たちは大体月額1万5,000円から2万円程度で、向こうの家賃から考えるとすごく安価な賃料で入って、そこで机を持ってコーヒーを飲みながら若い人たちがしゃべってるんですね。恐らくそこでネットワークが生まれてくるという俎上があって、いつもそこがたまり場みたいになってました。どんどんそれが成長して行って、ベンチャーキャピタルのようなのがまた投資して行って、いわゆるエコシステムが完全に確立されてるなというのを感じた次第です。ぜひこういうたまり場というか、いつも行ける場所、常にそこに行けば情報があってネットワークがつけれる場所というのを、これは大阪もつくっていかない

といけないなというのを強く感じましたので、ぜひ公立大学さんのほうにおかれても、海外のもヒントに置いていただいて、取組を進めていただきたいと思います。もし何かヒントやご提案をいただけるようであれば、要は大阪には先ほど申し上げたようにインキュベーション機能であれば産技研やいろんな機能を有してて、スタートアップであれば何とか、府市も持ってますし、たくさん機能を有してます。僕は、経済のバックヤードだけでいうと世界に負けない規模の経済を持ってると思いますし、スタートアップやインキュベーションを加速させていくに当たって、今我々が持ってるリソースをどうつないでいくかというのは結構重要になってくるかと思うんです。その中心的役割をぜひ担っていただきたいと思いますし、どこを加速したらいいか、もしくはどこに力を入れていかれるかというヒントがあればぜひ教えていただきたいと思いますと思うんですが、どうでしょうか。

(福島公立大学法人大阪理事長)

スタートアップの一つは僕やっぱり一つ大学だと思うんですよ。なかなか民間企業からね。自分の経験からいっても大きい会社っていろいろ、スピニアップファンドとかいっぱいつくってますけど、やっぱりスタートアップの担い手は僕は大学だと思うんですね。その大学は、やっぱり先生なんですよ。ところが、その先生もいろいろいらっしゃって、そんな事業を起こす気がある先生もいれば、そんなん何やという多様な先生がいらっしゃるわけですね。なので、今回一つは産官学民共創本部というのをつくりまして、その先生方の研究の成果の出口を、いろいろありますよと。これ、先生いいですねと。これはひょっとしたら企業を起こせるかもしれませんと。これは1回ライセンスで知財やったらどうでしょうかとか、これはどこかの企業さんと共同研究したらどうですかねとか、先生方がやってる研究成果の出口を、僕は戦略的マルチパスウェイ化、難しく言ってるんですけどね。多様化を図ると。それが一つだと思うんですね。新しい企業、スタートアップをやるのは僕やっぱり、極端に言えば大学しかないんじゃないかと思いますね。少なくともかなりのウェイトは大学が占めてるということで、何かそこら辺のことをやっていきたいと。

それからもう一つは、今市長言われたように、やっぱりいろんな人が集うということが要るんですね。昔、京阪奈の拠点が評判悪かったのは、居酒屋もないぞと言われていた。今大分ちょっと変わってきましたけど、そういうこともあって、大阪でいろんなところでたくさんできてるんですが、集めろという声もあるんですけど、今の大阪のイメージはまずたくさんつくって、横の連携をやるのが今の大阪のポジションじゃないかなと思うんですね。そういう意味ではうちの大学もこの春にはイノベーションラウンジみたいなものをつくって、自治体も企業の人も入って何かいろいろそこでフリーディスカッションしながらイノベーションに取り組むと。あと世の中的にはベンチャーキャピタルが足りないとかいろいろそういうのも、インフラ環境整備もあると思うんですけど、それはそれとして、僕はその2つをぜひこの大学でやって、かつやっぱり目標が何かないとあかんということで、さっき少なくとも50件はやりたいと。ちなみに去年、学生ベンチャー入れて5件出てるんですね。現在、僕が知ってる範囲でも十数件の、これは先生とか、企業を立ち上げたいという方がいらっしゃるんですね。ですから、そういうところのサポートはまた大学としてやらないと、その先生方が事業計画のつくり方って多分ご存じない、経験もありませんからね。そういうところは大学としてのスタートアップをつくと同時に支援をやる

みたいなことをやっていければなというふうに思っております。

シカゴはすごいらしいので、僕も1回機会があったら行こうかなと思ってます。お聞きしましたので。

(辰巳砂大阪公立大学学長)

今いろいろ横山市長にはご指摘いただいて、期待もされているということを強く感じております。そこで出た具体的なことでいうと、大阪産業技術研究所とは随分以前から連携協定を結んで、実質私も向こうの今の理事長とは大学の同級生なので、密にそういうことをやろうとしています。役割分担がやはりあるので、どういうふうに。いろんな案件が、中小企業だったらどうするというようなことを具体的にやっていこうとしています。

それから、人が集まるという話、今おっしゃっていただいたように、そういうたまり場になるとかですね。大学の機能というのはそういうところだと思っていて、今幾つか事例はありましたけども、中百舌鳥ハブ、それから森之宮本部、順次そこは整備していくんですが、まずは中百舌鳥ハブというのが1年後に開設できますので、そういったところにいるいろんな企業さんが入ってきてもらいながらイノベーションを起こしていくんですが、最初吉村知事がおっしゃってたように、自治体がそこにいるということが非常に重要で、それが公立大学を持っていたら意味だと思います。そういう意味でいうと、今日理事長が説明した説明資料の中の10ページのところに都市シンクタンク機能の強化というところがございますが、そこに政策共創オープンラボの新設というのがあって、私が1番今日重要だと思っているのはそこにある、府市とは3層構造、知事・市長と理事長・学長、4者会議とも言いますけども、それから府市幹部と大学執行部、そういうレベル。それから、府市職員と大学教職員による意見交換及び共創を推進する仕組みを構築していきたい。これは早くそういうことを実現していきたい。こういう3層の仕組みにおいて私たちが言っているのは未来都市創生ラボという、大学と自治体の皆さんとでつくるそういうところが非常に企業から見ると魅力があると思ってますし、ここには都市シンクタンク機能の話になってますが、次の技術インキュベーションのところでも、こういうところに企業が集まってきた、研究もしますけれども、非常に大きなテーマについて、大きな社会課題について取り組んでいくとか、あるいはそこで人材育成をするとか、そういう拠点にしたいと思っていますので、まずはここをぜひともお願いしたいと思います。これがまさに公立大学の意義だと思っています。

それと、細かい話をあとちょっとだけ申し上げると、ライセンス収入の問題は、これはニューメキシコ大学とこれから非常に強力に提携して、そちらのやはりノウハウ等も含めてやっていきます。これは内閣府と4年、5年前から強く連携して、その成果として今回の地域中核の事業が採択されたと思っていますけれども、そこで言われてきたのは、公立大学なんだからアメリカのステートユニバーシティーを見習えと。まあ言ったら我々、国の中では例えば旧帝大とかそういったところをめざしていきたいという話をしたときに、そうではなくて、例えばアリゾナ州立大学とかニューメキシコ大学のような、どういうふうに自治体と連携しているのかというのをよく調べてやったらどうですかという、それが起点になってますので、ぜひそういうのを進めていきたい。それが、ニューメキシコ大学はそうですし、スタートアップに関してはボストンにあるブラウン大学と提携していきま

すので、そちらもぜひ注目いただきたいなと思っております。

以上です。

（福島公立大学法人大阪理事長）

さっきの子ども未来社会。これはうちにもものすごく熱心に取り組んでる先生がおられまして、YOSSシステムをつくりまして、これは大阪市と府と、企業はパナソニックと、それから教育委員会ですね。ここでうちの先生がつくったシステム、今全国の自治体でたしか70か所ぐらいそういうのが入りまして、要はここにあるように今不登校とかものすごく大変なことが子どもたちの前で起こってて、子どもを独りにしないと。子どもと学校の先生たちが一緒にそういう子どもたちを健やかに元気に成長させていきたいと思いますということをやっておりまして、たしか近々また大きな会合をする。多分、知事、市長のところにもご案内も行ってるかもしれませんが。これは割とすばらしい研究をされて、しかもそれが自治体、教育委員会、それから民間も含めた一つの大きな社会を変えていくような研究活動をされてるので、ちょっとだけPRをさせていただいて。

（横山副本部長）

ありがとうございます。大変心強く思いますし、ぜひよろしくお願いします。出口をつくっていくという話も非常に重要かと思います。産官学民共創本部の創設が今年の4月ということなので、これ楽しみにしておりますし、3層構造で連携していくというところ。これがつながりを強めてビジョンを共有してどんどん強みを生かしていけることになると思いますので、これは府市としても力強く連携できるようによろしくお願いしますと思います。

私からは以上です。

（西島事務局長）

ありがとうございます。

そろそろお時間というのもございまして、特に何かご発言とかよろしいでしょうか。

そうしましたら、このあたりで最後にまた副本部長、本部長の中にご発言をいただければというふうに。

どうぞ。何かございますか。

（山口大阪府副知事）

我々ちょっと行政実務の立場でお願いをしておきたいと思ってて、都市シンクタンク機能であるとかインキュベーション支援機能、これはまさにそのとおりだろうと思うんですが、ただ、やはり言われて久しいと思うんですね。特に都市シンクタンク機能というのは、やっぱり公立大学としてしっかり担わなければならないというのが大きなテーマで、できたときからそういう議論がずっとあったと思うんですが、なかなかやっぱりしっかりと連携できてるかというか、そういう機能が果たしてるかという、いろいろやっぱり課題があると思ってます。

その一つは、都市シンクタンク機能のときのシンクタンクという場合、やっぱり1番重

要な相手というか大きな相手というのは、企業とかもいろいろありますけど、やっぱり大阪府であったり大阪市であったり、そこをどうパートナーとして組んでどういう政策をつくっていくか、そういうのをしっかりサポートするかということが非常に重要だと思う。今回、未来社会創生研究所以外に、先ほど学長言われたようにオープンラボをつくって、3層構造で議論をしっかりやっていきたいと思います。これは非常にいいことだと思います。その前提としてやっぱり大阪府市にある政策とか成長戦略であるとか、ここの共通認識がどれだけできてるか、大学の先生方とどれだけできてるかというのは非常に重要だと思うんですね。実はなかなかそういう交流が、かつて、一部にはそういうことを一生懸命やっていた先生いるんですけども、全体のテーマになってたのかというのはやっぱりちょっと、私自身も昔大学行政に関わったこともあって、ずっとやっぱり問題意識に思っていることなので、やはりまずは大阪府、大阪市が今どういう方向に向かってどういう政策をやるのかということをしかり先生方と共有させていただくことですし、できれば、なかなかやっぱりオープンラボといっても職員がしょっちゅう行けるということではないと思うので、やはり先生方のほうからもプッシュ型というか、我々のほうからこういうことどうでしょうかねというような提案とかお考えを聞きたいというのがありますけれども、やっぱり先生方のほうから、こういう政策とかこういうことについてどうなのかという、いわゆる実務レベルでの交流というか、そこをしかりやっていただくというのがいろんな政策につながると思うので、ぜひこのオープンラボの運営に当たってはそういう点を特に強化していただけるとありがたいなということで、これはもうお願いします。

（福島公立大学法人大阪理事長）

僕、理事長就任したときに府市と大学のグッドなコミュニケーションはあまり十分でなかったと思いますので、大阪府市の部局長の皆さんと、これは学長も私も、それから後ろにいる執行部の主力な先生とは昼も夜も含めていろいろディスカッションしてきておりますので、ぜひ今後も引き続きそれを進めていきたいと思います。そういうものの一つが、少しシステムティックなものはオープンラボでやりたいと思いますので。今度は僕、彼が言った何か大阪の行政機能のランチを森之宮で一緒に何か出してもらえんかなと。そうすると大学と大阪府市の一つの共創連携のシンボリックなことにもなるのかなと思いますので、また1度そこら辺につきましてはご相談させていただければと思います。

（西島事務局長）

ありがとうございます。

西山副市長。

（西山大阪市副市長）

1点だけ。地域との連携共創というのも一つ大きな視点に入れていただきたいなと思ってます。というのは、私も区長をやったので、地域で抱えてる課題というのが、防災であるとか子育て、教育、高齢化などあります。実際に例えば教育の関係でいいましたら大教大さんが教育サポーターを学校へ派遣していただいているとか、それとか大経大さんなんかは防災活動を企画から入っていただいたり、ゼミ単位で入っていただいて、地域と

一緒に企画と実施までやっていただいているとか、それから、これからの時代、高齢者の方、スマホを使えないと生活できないという状況になってきてますので、こういうところにも大阪成蹊大学さんとかが地域に出向いて行ってスマホの講座を開いてくれたりとかいう、地域に入り込んでの活動がかなり目立ってきてますし、地域としても助かってる部分があります。また、公立大学さんも男女いきいき財団なんかと一緒に女性の防災リーダーの育成活動をここ2年ほどやってきていただけてまして、かなりの成果も上げていただけているというふうに聞いてます。そういった活動を、もっとその取組を地域に広げていただいて、地域からも期待されてる大学、地域に開かれた、地域と一緒に発展していく大学をひとつめざしていただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

（福島公立大学法人大阪理事長）

ありがとうございます。我々大学のミッションで、本当に地域との連携は必要だと。10ページ目をちょっとご覧いただきたいと思いますが、三角の絵がありまして、西山副市長も言っていた、どちらかという地域課題の解決かなということで、地域連携センターというのがありまして、これは昨年で件数123、ワンツースリーで覚えやすいんです。123件やってまして、割と地域との密着もやらせていただいておりますし、今度森之宮に来年本部が移りますが、堺の中百舌鳥、それから杉本町、それから阿倍野ですね。非常に数千人の学生がいる拠点でもありますので、それぞれの拠点でそれぞれの地域のニーズに見合ったことを大学としては地域の皆さんといろいろ話しながら対応していく。これは大学のミッションの一つだと思いますし、今度は府市全体では、今ちょっと出ましたようにやっぱり大阪の都市機能を考えたときには災害に強いまち大阪とか、感染に強いまち大阪とか、外国人が来たら大阪はすごく魅力的なまちだとか、何かそんなふうなことを、地域よりもう少し広域のやつをぜひ、できたら来年の未来社会創生研究所で。それに先行いたしましてこのオープンラボでやっていきたいと思いますが、何よりもやっぱり我々は大阪公立大学ですので、大阪府市の皆さんと一緒に大阪のやっぱり成長と発展に貢献する。これはもう大学にとって1番大事なミッションだと思ってますので、ぜひ引き続きいろいろご支援いただきたいと思います。

（西島事務局長）

ありがとうございました。

それでは最後に、本部長、副本部長の順にご発言をいただければと思います。

（吉村本部長）

最後、まとめになりますけども、今日やった議論を中心に、副首都推進局で第2期中期目標の案を作成してもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。とりわけ秋入学はしっかりお願いしたいと思います。

（西島事務局長）

副本部長、どうぞ。

(横山副本部長)

ぜひ力強く中期目標の策定に向けてまたどんどん進んでいっていただきたいと思いますので。最後の最後まで申し訳ないですけど、森之宮にランチというのは、要は府市の機関を森之宮に設置するというイメージということですね。そこで連携がさらに強化できると。

(福島公立大学法人大阪理事長)

はい。外から見たらシンボリックなことになるかなと。

(横山副本部長)

なるほど。分かりました。ありがとうございます。ぜひ引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

(西島事務局長)

ありがとうございました。

それでは、会議のまとめとしまして、今日様々ご意見をいただきましたので、その内容を踏まえまして、設立団体である大阪府、大阪市として第2期中期目標案を作成してまいりたいと思います。

本日は以上となります。ご議論誠にありがとうございました。